

科目名	社会的養護Ⅰ			担当教員	藤田 哲也	
単位	2単位	講義区分	講義	ナンバリング	ED2CSR313	
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティヴ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	児童養護施設主任指導員					
実務経験を生かした授業内容	児童養護施設等での実務経験を活かし、社会的養護の現状や制度・政策について講義する。 また事例検討などを取り入れ、子ども・家族への具体的な支援や施設保育士の役割についての講義を行う。					
到達目標及びテーマ	社会的養護の制度や政策について学びながら、児童福祉施設の役割について説明できる。子どもの権利について学びながら、権利擁護の重要性が説明できる。 事例検討をふまえ、施設保育士の役割について具体的に説明することができる。					
授業の概要	本講義では、社会的養護の現状をふまえ、視聴覚教材や現場の事例（虐待を受けて入所に至った子どもの事例や自立支援・家庭支援の事例等）を取り入れながら『子どもの最善の利益とは何か』について検討していく。 講義の終わりには、コメントシートに講義を受け理解したこと、感想、疑問点、質問等を記入する。記入された質問や意見については、次の講義でコメントや必要に応じて補足をし、より理解が深まるように取り組んでいく。本講義は講義形式ではあるものの、グループワーク・グループ発表を取り入れ、学生同士が主体的に取り組めるように進めていくので、積極的な参加を期待している。					

授業計画	
第1回	オリエンテーション/社会的養護の現状：社会的養護とは何か、現状と課題について理解する。（テキストp.10～17、p.23～28参照）
第2回	社会的養護の基本理念と原理：社会的養護の基本理念と原理について理解する。（テキストp.17～22参照）
第3回	社会的養護の歴史：社会的養護の歴史について、諸外国と日本を比較しながら理解する。（テキストp.29～43参照）
第4回	子どもの権利擁護と社会的養護：子どもの最善の利益や権利を守るための仕組みについて理解する。（テキストp.44～57参照）
第5回	社会的養護の体系と実践：社会的養護の法律や制度、施設養護の過程について理解する。（テキストp.59～71参照）
第6回	社会的養護の領域と概要①：社会的養護の実施機関の一つである乳児院と母子生活支援施設について理解する。（テキストp.73～86参照）
第7回	社会的養護の領域と概要②：社会的養護の実施機関の一つである児童養護施設について理解する。（テキストp.87～95参照）
第8回	社会的養護の領域と概要③：社会的養護の実施機関である児童心理治療施設・児童自立支援施設について理解する。（テキストp.96～100参照）
第9回	社会的養護と領域と概要④：社会的養護の実施機関の一つである自立援助ホームについて理解する。（テキストp.101～105参照）
第10回	社会的養護の領域と概要⑤：社会的養護の実施機関の一つである障がい系の施設について理解する。（テキストp.132～145参照）
第11回	家庭養護と施設養護：新しい社会的養育ビジョンを基に家庭養護（里親・ファミリーホーム）の実践について理解する。（テキストp.118～131参照）
第12回	被措置児童等の虐待予防：被措置児童等虐待の現状と課題について理解する。（テキストp.185～188参照）
第13回	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理：社会的養護に関わる専門職等について学び、子どもが求める職員の具体像について検討する。（テキストp.146～162参照）
第14回	社会的養護とソーシャルワーク：社会的養護とソーシャルワークについて理解する。（テキストp.164～179参照）
第15回	施設の運営管理：施設の運営管理について理解する。／講義のまとめ。（テキストp.181～185参照）

事前学修	2時間	各講義の項目に関する内容について、テキストの該当ページを読み予習しておく。またテレビや新聞記事、ネットニュース等を活用し、日ごろから児童虐待への関心を持ち必要に応じて自らまとめておくこと。
事後学修	2時間	講義内容や講義等で配布されたプリントから、学んだことをノートに整理し必ず復習をしておくこと。また、講義内容等で不明な点や疑問点があれば、そのままにせず必ず聞きに来ること。
フィードバックの方法	毎回のコメントシートに記載された内容については、次の講義の冒頭にて振り返りと必要に応じて補足、または説明をおこなう。また講義中間で小テストをおこない講義内でフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

定期試験	80%	学習内容を正しく理解しているか、根拠をもとに自らの意見を述べることを確認する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	小テストの結果、コメントシートの内容や分量、課題・講義への取組み姿勢などを総合的に評価する。
補足事項	提出物について、未提出は評価しない。また、提出した場合であっても、期限後の提出は減点とする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
みらい×子どもの福祉ブック ス 社会的養護Ⅰ【第2版】	喜多一憲・堀場純矢	みらい	978-4-86015-607-7	なし
参考資料	・ こども家庭庁支援局家庭福祉課（令和7年1月） 『社会的養育の推進に向けて』 https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/8aba23f3-abb8-4f95-8202-f0fd487fbe16/85d5a9d1/20250108_policies_shakaiteki-yougo_115.pdf			

科目名	社会的養護Ⅱ			担当教員	藤田 哲也
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	児童養護施設主任指導員				
実務経験を生かした授業内容	児童福祉施設現場の実態や課題をふまえ事例を提供し、具体的な支援について学生同士が主体的に考えられるような講義をする。				
到達目標及びテーマ	事例検討を行い自立支援計画を策定するなかで、子どもの最善の利益について論じることができる。 様々な事例検討を行うなかで、事例を読み解く視点や方法を応用することができる。 児童養護問題を解決するために必要な援助技術を活用することができる。 社会的養護の下で暮らす子どもの個別支援や自立支援、家庭支援等の方法と重要性について説明することができる。				
授業の概要	児童福祉施設等でおきている事例をもとに、ジェノグラムやエコマップ作成の基本を学ぶ。また、事例検討のなかで支援の基本となるポイントをおさえ、様々な援助技術の活用について考えていく。さらに自立支援計画（もしくはアセスメントシート）を策定していき、グループディスカッション等を通して子どもの最善の利益について考えていく。				

授業計画	
第1回	＜はじめに＞：オリエンテーションにて講義内容や進め方等について説明する。『働きやすい施設とはどのような施設だろう』について考える。（テキストP21～34参照）
第2回	＜社会的養護における支援内容①＞：アドミッションケアからアフターケアまでの支援の流れを理解する。（テキストP35～40参照）
第3回	＜社会的養護における支援内容②＞：インケアの具体的な内容（日常生活支援・治療的支援・自立支援）について理解する。（テキストP41～51参照）
第4回	＜ジェノグラムとエコマップ①＞：家族像をとらえる時に必要である、ジェノグラムとエコマップの書き方について学び、事例をもとに活用方法を学ぶ。（テキストP62～63参照）
第5回	＜ジェノグラムとエコマップ②＞：ジェノグラムとエコマップを活用し事例検討をおこなう。（テキストP62～63参照）
第6回	＜自立支援計画の策定①＞：事例を基に児童自立支援計画（もしくはアセスメントシート）を策定する。策定の意味を考えその方法について学んでいく。（テキストP52～67参照）
第7回	＜自立支援計画の策定②＞：事例を基に児童自立支援計画（もしくはアセスメントシート）を策定する。策定にあたり、課題を明確にして目標設定をする。（テキストP52～67参照）
第8回	＜自立支援計画の策定③＞：事例を基に児童自立支援計画（もしくはアセスメントシート）を策定する。社会資源との連携をふまえ支援内容について検討する。（テキストP52～67参照）
第9回	＜社会的養護と相談援助①＞：バーステックの7つの原則を確認し、対人援助職としての基本を身に付ける。（テキストP74～79参照）
第10回	＜社会的養護と相談援助②＞：対人援助職としての必要となりうる様々な援助技術について学び体験する。
第11回	＜事例検討①＞：入所してくる子どもたちの状況を把握し、グループ内で意見交換をしながら支援内容を確認していく。（乳児院）
第12回	＜事例検討②＞：入所してくる子どもたちの状況を把握し、グループ内で意見交換をしながら支援内容を確認していく。（児童養護施設）
第13回	＜事例検討③＞：入所してくる子どもたちの状況を把握し、グループ内で意見交換をしながら支援内容を確認していく。（児童心理治療施設）
第14回	＜社会的養護の今後①＞：小規模化・地域分散化が進み、家庭養護推進されていく中での課題を明確にしていく。（テキストP168～175参照）
第15回	＜社会的養護の今後②＞：新しい社会的養育ビジョンについて考える。講義のまとめ。

事前学修		日ごろから児童虐待等子どもの事件に関するニュース・新聞記事等を読み、課題に取り組めるよう準備しておくこと。また、各講義で扱う内容のテキスト該当ページを読んでおくこと。自らが住んでいる地域の社会資源について調べておくこと。
事後学修		講義内での疑問や不明な点は、必ず聞きに来ること。講義内での感想や意見をまとめておくこと。

フィードバックの方法	コメントシートの内容に対して、次の時間にフィードバックする。また定期試験の解答例や解説を一定期間掲示する。
------------	---

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	80%	学習内容の正しい理解、内容の妥当性、文章の構成、形式等総合的に評価する。
上記以外の試験・平常点評価	20%	コメントシートの内容、課題への取り組み、内容等を総合的に評価する。
補足事項	提出物について、未提出は評価しない。また、提出された場合でも期限後の提出は減点とする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
みらい×子どもの福祉ブック ス 社会的養護Ⅱ【第2版】	喜多一憲・堀場純矢	みらい	9784860156084C3036	なし
参考資料	適宜資料等を配布する			